

2017年4月3日

「司法政策に関する常設委員会 議長 Shafiq Qadri 殿」

Cc 「司法政策に関する常設委員会 副議長および議員の方々へ

<議員提出第79法案「南京大虐殺記念日制定法案」に関して>

これは2月15日にお送りした前の書簡に続くものです。前の書簡も参照のために添付します。その後、私は第二回読会の筆記録を通読しましたが、全くバランスを欠いた根拠のない要求ばかりだと判断せざるを得ません。

特に遺憾に思ったのが、オンタリオ州の教育機関に政治的なキャンペーンが浸透しているという事実です。生徒たちの誠実な信念は疑いなく私は思います。しかし教師たちの指導とおそらくは励ましの下に、生徒たちがオンタリオ州議会に対して政治的な働きかけを行ったことは疑いありません。教育関係者たちは大人なので、生徒たちが利用されるのを防がなければなりません。この問題に関する教育資料を使用することに、州の教育省がいったいどういうふうにして承認を与えたのでしょうか。

第二次世界大戦が終ってから時間がたち、機密書類の機密が解除されたおかげで、膨大な量の出所の明らかな資料が利用できるようになり、研究や議論が進んできました。少なくとも市民が学問の自由を享受している日本などの国々では、それが実現しています。

オンタリオ州の学生たちも同様の利益を得て、反対意見、代替意見を見聞きする機会に恵まれ、因襲的な意見を鸚鵡返しに述べるのではなく、批判的な考えをすることができるようになるべきです。たとえば、次のようなことを知れるように。

●1930年代40年代の日本は、ムッソリーニ治下のイタリアやナチスのヒトラーに支配されていたドイツのようなファシスト国家ではありませんでした。昭和天皇も、第40代首相・東条英機（1941/10～1944/7）も、行政的軍事的に一身に集中した権力を持ってはいませんでした。

●当時の日本は混乱してはいましたが、プロシアや英国をモデルにした議会制度によって統治されていました。戦争の最中にさえ、二回の総選挙があり、それに引き続いて政

変が起りました。ナチスドイツではゲシュタポ、ソ連では KGB、共産党一党独裁の現代中国では 601 機関が全体主義的支配を施行し維持していますが、日本にはそれに該当するような秘密警察は存在しませんでした。

●日本を中傷する人々は、使い古された写真や、ハリウッド紛いの映像を繰り返し繰り返してサイバースペースにまき散らし、日本が「アジアのホロコースト（大虐殺）」を行ったかのようなイメージを広めています。現実の日本はそのような犯罪を犯す理由も動機も持っていませんでした。

●現実に行われたホロコーストは、何世紀も昔からの反ユダヤ主義と、当時広まっていた「優生学」という名の社会的ダーウィニズムの融合から生じたものでした。このような思想が当時のヨーロッパと北米の知識人と政治的宗教的指導者の間でもはやされており、それらの人々の中には、ユダヤ人を始めとする好ましからざる民族を組織的に「浄化」することに積極的に協力し、あるいは少なくともこれを看過する者も少なくありませんでした。一方で、ナチスによって、「アーリア人という支配民族」を作り出そうという試みが行われていました。

●日本が夢見ていた「大東亜共栄圏」は、アジアの安定を図り、経済的発展と政治的影響力を確保することを目的としていました。日本はまた、よきにつけ悪しきにつけ、アジア諸民族の独立を求める闘争を援助して、アジアをヨーロッパと米国の植民地支配から解放しようと努めていました。蒋介石やスバス・チャンドラ・ボースを含むリーダーたちは、日本人の支持者や後援者と行動を共にすることが多々ありました。

●初期の日本の中国政策は、現地の人々との友好・平和を旨とするものでした。陸軍が派遣されたのは、法の支配が失墜した中国で、日本人住民と日本企業の活動を保護するためでした。しかし、ドイツが、国民党軍を訓練し、援助したために、その規模は当初から日本軍の 20 倍近くにまで膨れ上がっていました。

●非武装の日本人住民に対して、一連のゲリラのテロが行われました。——その一番恐ろしい有名な出来事は1937年7月29日の通州虐殺でした——この事件を企んだのはコミンテルンのスパイであり、結果として、日本軍が中国に侵攻し、南方へ向かうことになりました。一方、蒋介石は、毛沢東の共産党グループと提携せざるを得なくなりました。日本と蒋介石の国民党軍の間に全面戦争が勃発し、その間に毛沢東は地方政権を樹立することができました。

●蒋介石は、戦争遂行のために、また米国を始めとする西欧の援助を引き出すために、一番重要なものは宣伝工作だと考えました。そこで宣伝局が創設された。宣伝局の複雑な組織図を見てみると、ニューヨーク、ロンドン、モントリオール、シドニーなどの国際都市に支部や協力機関のできていることがよく分かります。東京裁判において、「南京大虐殺」の公平な第三者とされていた重要な外国人証人のうちの2人が、この宣伝局で働いていたことが後になって判明しました。

●宣伝工作は戦後も長く続けられ、最後には多くの触手を伸ばして、教育部門まで創設することになった。戦後シベリアの労働キャンプに不法に収容されていた千人近い日本人捕虜が「戦争犯罪人」という烙印を押されて中国に送られました。彼らは再教育キャンプに6年間も収容されました。その間に、彼らの「戦争犯罪」について、口頭あるいは書面での証言と告白が作成されて記録されました。この工作の生存者たちはようやく日本への帰還を許されると、組織を作り、その多くは告白を続けました。

●学生たちが、次のような英語のサイトにアクセスできるようにしてやらなければなりません。

- ❖ <https://youtu.be/Vi6F1YJ-q64?list=PLQcWKBpp8Hijq3mzYFGQfDrH4r28ZjGLR>
1938年2月に日本語で公表された古い映画のコピー。そもそもは民間映画会社東宝の文化部が南京で撮影したものであり、松尾一郎が英語のキャプションをつけている。この映像は、大虐殺が行われたということになっている1937年12月13日から1月中旬までの南京の様子を捉えている。南京市の安全地帯内外の広汎な地域が映っているが、病院や歴史的

建造物が無傷で残っていることがよく分かる。また、住民が市に帰還し、商人が店を開き、子供たちが日本人兵士を恐れる様子もなくいっしょに遊び、戦死した兵士たちのために追悼式が行われている様子が見て取れる。

- ❖ http://www.sdh-fact.com/CLo2_1/26_S4.pdf “東中野修道「南京事件 証拠写真を検証する」
- ❖ http://www.sdh-fact.com/CL02_1/27_S4.pdf 東中野修道「南京事件 国民党極秘文書から読み解く」
- ❖ http://www.sdh-fact.com/CL02_1/7_S4.pdf 田中正明「南京で本当は何が起きたのか：神話への反駁」
- ❖ http://www.sdh-fact.com/CL02_3/17_S1.pdf
- ❖ 茂木弘道「胡錦濤国家主席への公開質問状」
- ❖ <http://www2.biglobe.ne.jp/remnant/nankingm.htm> 久保有政師「いわゆる南京大虐殺は捏造」

また、学生たちは「史実を世界に発信する会」の茂木弘道事務局長宛てに手紙を書いて、質問をすることができます。

二週間前のこと、私はマーカムのショッピングモールの中の展示ブースで、第79法案を支持する署名を集めている現場に遭遇しました。若い女性がキャンペーンをしていたので、話しかけると、中国人だということでした。私は彼女に、「南京大虐殺」を最初に知ったのはいつだったかと訊きました。すると、彼女は、つかえつかえの英語で、「小学校3年のとき」と答えました。私は、活動家たちがしたい放題をしているのではないかという疑念に駆られながら現場を去りました。彼らは我々カナダの中学校やさらには小学校の生徒たちまでをも同じように洗脳してしまうのではないかと心配でした。

我が家の近くにある雑貨屋では、今なお署名運動が行われています。字幕を張ってありますが、そこに書かれている文字は「Bill 79 (第79法案)」を除いてはすべてが中国語でした。これが、我々が誇りにしているカナダとその多様性なのでしょうか。

現実問題として、中国政府と日本政府が歴史的論争に関して合意に達する可能性はほとんどないでしょう。中国の政府当局は、歴史の政治的に正しいバージョンだけを受け入

れ——事実はどうでもいいのだ——日本政府は、論争は学者にゆだねて、自らは関与しないようにしています。

ではなぜ、オンタリオ州政府は、オンタリオの納税者の負担で、論争にかかわろうとしているのでしょうか。

私は、貴委員会がこの奇怪な行動を止める力を持っていると信じています。

敬具

Sharon Isac

Sharon.isac@gmail.com

2017年2月15日附けで、キャスリーン・ワイン閣下とスー・ウォン女史宛てに書いた手紙を添付します。州議会議員全員にコピーを送っています。

<添付> 27年2月15日

カスリーン・ワイン殿、スー・ウォン議員殿

CC 全オンタリオ議会議員

<Bill 79 南京大虐殺記念日法案について>

<添付>

2017年2月15日

カスリーン・ワイン殿、スー・ウォン議員殿

CC 全オンタリオ議会議員

<Bill 79 南京大虐殺記念日法案について>

私は40年以上にわたってオンタリオ州に居住していますが、この法案に対して強く反対して、この書簡をお送りする次第です。

以下の事項を考慮していただきたい。

●南京大虐殺とは、70年以上にわたる政治的動機を持った宣伝工作であり、1930年代に蒋介石の国民党（KMT）が作り出したものである。それを東京裁判という名で知られる極東国際軍事裁判において、連合国が粉飾を加え、正当化したのである。米国は戦後の日本を7年間も占領し、その間、あらゆる分野のジャーナリズムに厳しい検閲を行い、同時に教育課程にまで容喙した。それが功を奏して、この捏造された物語が日本人の心に刷り込まれることになった。今では、この宣伝工作は世界中に触手を伸ばしているように思われる。一つには、「世界抗日戦争史実維護連合会」が暗躍しているせいである。そして、この連合会は、1949年に毛沢東が確立した中華人民共和国の一方独裁の影響下にある。

●南京大虐殺とは、何だったのだろう。1913年から1949年までの間に、現実に三件の虐殺が南京で起った。南京の住民に対して、レイプ、掠奪、放火、殺人などが犯されたのであるが、それを行ったのは日本帝国陸軍ではなく、中国人兵士だった。忘れてならないことは、1912年に清朝が崩壊した後、中国は軍閥支配の時代に入り、この国の社会は混乱と無法状態に支配されることになっ

た。征服された城壁都市の内部で、生き物がすべて殺されてしまうというのは、従来の戦争の常であった。そして、焦土作戦というのは、古代から大陸の歴史に頻繁に見いだされる戦略の一つだった。しかし、「全てを焼き尽くす」という「三光作戦」は、日本列島の歴史用語の語彙の中には存在しないものである。

●一般的にこういう政策、戦術に含まれる生命の軽視、破壊の規模は驚くべきものがある。1938年6月9日に起った黄河決壊事件は、現代史における環境戦争の最大のものであったと看做されているが、この事件の詳細は誠に示唆に富んでいる。これは、日本軍の前進を妨げるために、蒋介石が命令したものだ。それほどの被害をもたらすとは予測されなかったが、現実には恐るべき結果を生んだ。1500万人が罹災し、そのうち死亡者数は少なく見積もっても50万人。何千何万もの村落と肥沃な土地が破壊され、その結果飢饉が発生した。あろうことか、この大災害は当初は日本のせいにされたのである。

●1945年に日本が敗北すると、中国はまた内戦に苦しむことになった。今回は米英に支持された蒋介石の国民党と、ソ連の支援を得た毛沢東の共産党との戦いだ。内戦は1949年に毛沢東の勝利に終わったが、この年、南京はまたまた虐殺の対象となった。まずは蒋介石軍が、さらには毛沢東軍がこの町を破壊し尽したのである。

●1937年12月の南京攻略戦の総司令官は松井岩根大将だった。この人は、中国専門家として中国古典文化を崇拝する人だとされていた。彼は南京が中国の古代の首都だったことを重々意識しており、国際法——ハーグ条約およびジュネーブ協定——を遵守するようにと厳しい命令を発していた。次に示すのは、1937年12月9日から、1938年2月8日までの主要な出来事を時系列に沿って整理したものである。

1. 12月9日、日本軍が南京郊外に到着した。道路も建物にも人影が見当たらなかった。住民の大半はすでに市内から逃げ出し、残った者たちは外国人が設定した国際安全地帯に避難していたので、日本軍兵士は町が奇妙な静寂に包まれて

いるのを発見した。建物が炎上していた。おそらくは焦土作戦の結果だったのだろう。

2. 9日、日本軍はビラを撒いた。10日正午までに降伏すれば保護を与えることを保証するビラだった。

3. 10日の13時（午後1時）、期限を1時間過ぎても敵は降伏して来なかったため、日本軍は攻撃を開始した。

4. 中国軍を指揮していたのは、唐生智将軍であり、南京という城壁都市を死守することを誓っていた。しかし、彼とその側近たちは、12日に南京から逃亡し、しかも、軍には降伏せよとの命令を出さないままだった。それに続いたのは混乱と無秩序だった兵士たちは逃げようとして、背後から味方の督戦隊に射殺された。射殺した方ももちろん中国兵であり、始めから逃亡兵を狙撃するのが任務だった。南京城の19の門のうち、開いていたのは一つだけだったので、兵士の中には13～20メートルの壁によじ登って逃げた者も少なくなかった。また、軍服を脱ぎ棄てて安全地帯に逃げ込む者もいた。武器弾薬を持って行ってゲリラ活動をする者も多かったため、日本軍は安全地帯の内部で掃討戦を行わなければならなくなった。

5. 南京が陥落したのは公式には12月13日だった。

6. 12月17日、公式な入城式が行われ、松井大将がパレードの先頭を進んだ。

7. 1938年1月1日、松井大将の命令によって、南京の住民による南京自治委員会が設立された。

8. 特に注目すべきことは、南京安全区国際安全委員会が作成した記録によると、戦闘が行われていた時点での南京市の人口が20万人だったことだ。1箇月後には、人口は25万になりその後増え続けたことだ。秩序が回復され、戻って来た住民が生活を始めたためである。兵士たちの目撃した所によると、早くも12月16日には、街路には多くの露店が開店していた。陥落後の南京市を撮影したフィルムをオンラインで見ることができる。https://youtu.be/W-Erp_T3kiI 「1937年12月13日から翌年2月中旬までの南京市民の記録」

9. 1938年2月8日、安全地帯が廃された。

●松井大将は、東京裁判の際に、兵士たちの中に誤った行動に出た者のいたことに対して遺憾の意を表明したが、そのとき彼の頭の中にあったのは、決して、アイリス・チャンの「レイプ・オブ・ナンキン」に生々しく描かれている集団レイプ、掠奪、虐殺などのとんでもない場面ではなかった。彼の軍隊が大規模な虐殺を行ったということについては、彼は明白に否認した。まして、虐殺を命令したなどということはいえなかった。彼が悔悟の意を表明したのは、いかにも日本人らしい潔さであったのだが、これが有罪の認諾として検察側から利用されることになってしまった。

●南京事件の被害者と自称する人々が東京裁判の法廷に提出した証拠は、大半が検証も反対尋問もすることのできない書面による報告だった。現実に殺害を目撃した証人は一人だけで、しかもこの証人は、反対尋問を受けて、自分が見たのは、止まれと言われて止まらなかった一人を日本人兵士が射殺した例だけだったと証言したのである。このような射殺は合法だった。

●なんという歴史の皮肉であろうか。生涯を通して、あんなにも熱心に、真摯に、植民地主義の桎梏から大東亜共栄圏の国々を解放して明るい未来を建設しようとした男（松井大将）が、アジア最悪の虐殺を行ったということで有罪の判決を受けたのである。しかも、その罪は、ユダヤ人のホロコーストに匹敵するかあるいはそれよりも残虐なものだったということにされて、彼は絞首刑の判決を受けたのである。

●東京裁判で連合国を代表する判事は12人いたが、その中で国際法の専門家としての資格を持っていたのは、インド人のラダ・ビノード・パル判事だけだった。この人は、東京裁判の裁判手続に甚だしい根本的な欠陥があり、したがってこの

判決が違法であると考えた。この判決文に付けられたパル判事の反対意見の最終ページには次のような記述がある。

「ここは司法裁判所である。本裁判所が設置された目的は本当は本質的に政治的なものであるのに、司法目的を達成しようとしている振りをしているに過ぎないのである。どのようにしても、その欺瞞を繕うことはできない。」

「このような言葉がある。勝者は敗者に、慈悲から復讐まで、どんなものでも与えることができる。しかし、与えられないものが一つだけある。それは正義である。少なくとも、裁判所の根幹が法でなく政治であるならば、どんな形態であろうと、どんな言い訳をしよう、正義は達成されない。正義とは強者の利益以外の何物でもないという外はなくなるのだ。」

「このような政治的な問題に判断を降すために裁判が行われるのだと分かっていたら、審査全体がまったく異なった様相をとったであろうし、取り調べの範囲もずっと広汎なものになっていたはずだ。このような裁判の場合、被告の過去の行動は、単にある証拠事実を提供するものにとどまったであろう。真の究極の「証明すべき事実」は世界の「公共の秩序と安全」に対する将来の脅威であろう。そのような将来の脅威を判断するような資料は本裁判所には絶対がない。

●パル判事は、被告27人全員が無罪であると判断した。

東京裁判の真相は70年以上前に上演された「復讐劇」だった。然るに、オンタリオ州議会はこの劇の上演を続けようとしているのだから、オンタリオの市民として啞然とせずにはいられようか。

私は人の親であり、将来いつか孫を持つに違いない。だからこそ、我が州の生徒たちが、『ザレイプオブ南京』のような政治的宣伝の資料を刷り込まれることには重大な関心を寄せざるを得ない。この書物は、事実関係の間違いが多すぎる。たとえば、掲載されている34枚の写真すべてに、根拠不明な改竄と修正の跡が見られるか、もしくは捏

造の疑いがあることが証明されている。日本の「リベラル」な出版社である柏書房でさえ、敢えて日本ではこれを刊行することができなかった所以である。

私は日系人として、先祖の国とその国民に対して、捏造情報戦が容赦なく続けられているのを見て、屈辱の思いに堪えない。

もう一つ理解していただきたいことがある。私は極めて少数派の日系人である。日系人の中には、はるかに大きなグループから恫喝を受けているという恐怖感に駆られている者が少なくない。今、議会で提出されている法案は、中国共産党の攻撃的な政策と軍事行動の延長のようなものである。創設以来すでに、内モンゴル、チベット、ウイグルを征服してしまった中国共産党になぜ阿諛追従しようというのだろうか。

この不条理な法案が第三読会を通過することを即座に阻止していただきたい。

私は個人的には中国人民に対して敬意を抱いている。長い歴史を生き抜いてきただけでなく、不屈の、機略に富む、思いやり深い、有能な国民として注目されるようになっている。自由のために戦い続けている人も少なくないが、悲しいかな、カナダに住んでいる我々は、あたりまえのこととして、気にも留めようとしない。1989年6月4日、天安門広場で、軍の戦車の前に一人で立ちはだかった若者のことを覚えているだろうか。あの姿を誰が忘れることができようか。政治的な立場を鮮明にしなければならない時には、自問自答して欲しいと思う。「自分はどちらの味方をするのか」と。

Bill 79に対する反対意見を述べたが、お返事をいただきたいと思う。

敬具

Sharon Isac

Cc: All Ontario MPPs